

当面の技術対策（畜産編）

平成23年9月15日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 サイレージ用とうもろこしの収穫

本年の飼料用とうもろこしの生育は、子実の登熟が早く経過しています。最大栄養収量を得るために、ほ場を巡回し適期の収穫に努めましょう。

(1) 生育状況を確認

ほ場条件や肥料(分肥・追肥)により、同じ品種でも熟期に差があります。

また、すす紋病等の発生程度によっても作業の順番が異なります。ほ場ごとに子実の熟期や枯れ上がり状況を確認して、作業計画を立てましょう。

(2) 鋭利な切断面の確保

ハーベスタの刃の研磨は1日1回以上行いましょう。鋭利な切断面にすることにより、廃汁による栄養価のロスを軽減し、発酵品質の向上が期待されます。

(3) 適切な切断長での収穫

適切な切断長は、破碎処理の有無と熟期によって異なります。

【破碎処理をする場合】

破碎処理時の切断長は19mmとし、ローラーの隙間の設定目安は黄熟期で5mm、完熟期で3mmを目安にしましょう。機種により破碎程度が異なるので、試運転により子実が確実に破碎されていることを確認して切断長とローラー幅を設定しましょう。

【破碎処理なしの場合】

切断長は黄熟期で10mm程度としますが、完熟した場合や霜害時は5mm程度にします。

2 採草地の雑草処理

本年はギシギシの繁茂が目立っています。計画的な雑草処理を行い、牧草の生育・収量の確保、草地維持に努めましょう。ギシギシの防除は、ギシギシの葉が手のひらサイズに展葉した、草丈15cm～20cmが除草剤散布の目安となります。

表 経年草地ギシギシ類の秋処理

薬剤名	適応場所	使用時期	適応草種	薬剤量	水量
ハーモニー 75DF水和剤()	経年草地	夏及び秋処理、 採草21日前まで	イネ科単播	3g/10a	100 ^{リットル} 以上
			イネ科+アルファルファ混播		
			アルファルファ+イネ科混播	2～3g/10a	

() 使用後の散布機洗浄は、必ず専用の洗浄剤を使用してください。

計画的に休憩を取り、農作業安全に努めましょう